

認定こども園 はぐくみの家 仰木星の子
令和3年度 自己評価・施設関係者評価 報告書

1. 園の教育目標

<教育・保育方針>

- ・子ども一人ひとりを大切にする教育・保育
- ・子どもたちのより良い今と未来につながる生きる力を育む

<具体的な目標>

- ・主体的・意欲的に行動できる力を身に付ける
- ・遊びや活動を通して総合的な生きる力を育む
- ・社会の一員として望ましい資質（社会性）を育む
- ・基本的生活習慣の自立を育む

2. 施設関係者評価委員会の総評

令和4年3月10日に評価委員6名が同席の上公開保育を実施するとともに、今年度の本園における目標と取り組み状況の聞き取りを含めて施設関係者評価を行った。

本園は令和2年度に園舎改築工事を行い、単に新しいだけでなく文化的な美しさが垣間見える環境の中で保育を行っている。また隣接する仰木西公園は約25,000㎡と広大で、その地域環境を活かして自然豊かな環境と存分に触れ合うことができる環境にある。

多くの木々や植物・勾配のある斜面、グラウンド、また地域の住民とも自然と交流が生まれ得る環境を今後も存分に活かして保育が行われることを期待したい。

園内の環境は国の基準を大きく上回る施設の面積や人員配置のもと、子どもたちがゆったりと環境と対話し、大人の眼差しに見守られ、0～6歳の人生にとって大切な時期を過ごすには大変望ましい環境であると言えるだろう。

各保育室の物的環境はどれも質が高く、多種多様な要素が散りばめられ、子どもが主体的に選択できる活動の多さに圧倒された。単に玩具や素材の種類が豊富なだけでなく、子どもの思いや発想を具現化したであろう空間が多く、多くの保育室内で見取れた。

保育理念とする「子どもの今と未来の幸せに」を念頭に、変化し続ける本園の保育の姿を実際に目にすると、保育者がよく学び専門性を積み重ね、保育理念の実現性が日々高まっていることが垣間見えた。

園の自己評価において課題としている、保育の記録のあり方の再検討と、本園の質の高い保育・教育をどう可視化し、保護者との子どもの姿に関する共有を一層充実させるか、保育者の事務量に大きな変化が生まれないように工夫しながら挑戦されることを期待する。

3. 本年度重点的に取り組む目標（評価項目）と自己評価及び取り組み状況

	目標・取組内容（評価項目）	評価	取り組み状況
1	自然を活用した環境を充実させ、園庭の環境整備や室内での自然物の活用を促進し、子どもが自然に親しむ機会を充実させる。	A	園庭に植樹を行ったことから、芽吹く緑や花・実、またそこに集う生きものとの出会いが増加した。 保育室内においても、保育者が自然物を積極的に取り入れ、より豊かな保育環境を提供することができた。
2	地域環境（主に仰木西公園）を安全かつ豊かに保育に活かす	B	新型コロナウイルスの影響もあり、異年齢で交流や安全の観点から保育者を多く配置して園外へ赴くことに困難があった。 次年度は人員配置や、園外保育の計画的な運用を行い、より一層充実させたい。
3	ノンコンタクトタイムの達成率向上による保育の質向上	A	ノンコンタクトとしての記録や計画、会議を行う時間を確保するため、ノンコンタクトシフトを作成し、達成率の向上を図った。 これにより達成率が向上するとともに、その内容の充実を図り、結果として保育の質向上を推進することができた。
4	保育に関する記録のあり方の検討・見直し	A	本園においては、保育の計画や記録様式のあり方について、これまでも検討を重ね、園独自に改訂を行ってきた。 次年度からは短期的な計画及び記録について、 Learning Story へと形式を改め、子ども一人ひとりの「夢中になっていること」や「気持ちを表現していること」などのありのままの姿に着目して、その子らしい「今ここ」を見出だし、その可能性を伸ばしていこうとする、肯定的な観察と記録の方法へ取り組みをすすめる。